

4月14日 研究報告

テーマ

ファッショントレンド発信源の変遷

(~2013年秋学期)

「日米ファッションの変遷比較-『VOGUE』掲載PRADAコレクションをもとに-」

1.前年度研究の成果と今後の研究目的

2013年夏、フィールドワークを行い、雑誌『VOGUE』に掲載されたPRADAコレクションの日本のトレンドへの影響力を調べた。結果、日本のトレンドは最短であれば前シーズン、遅くとも2年前のコレクションから来ていることが判明した。しかし、日本のトレンドの中には世界的コレクションが起因ではないもの、あるいはコレクション以前に発生したものも見受けられた。(例 'ニット帽'、'プロデューサー巻き') 今後このようなトレンドの発信源はどこなのか調べるつもりである。

2.仮説

貴族の洋服やドレスを仕立てに宮殿に仕えていたデザイナー達が活躍の場を広げ、自らデザインを発表するようになったのが現在のコレクションの形である。そして、コレクションを一般受けするようにデザインが緩和されて市場に出回るようになった。このように時代と共にトレンドの生まれ方は変容し続ける。近年、世界的デザイナーがトレンド創出の絶対的存在になっていたが、今後新たな発信源が増えると考えられる。例えば、'セレブ'、'アーティスト'、'モデル'が着こなしや組み合わせを工夫し公衆の面前に出たり、メディアの発展により「ブログ」や「YouTube」で一般人が個性的な世界観を公表している。

今後は主に安価で手軽なネットを介してファッショントレンドの発信が行われると考えている。

3.手法

雑誌でトレンドの変遷を見ると同時に、ファッションアイコンとなる著名人の動向を調査する。徐々に遡り、発信源を探す。

4.流れ

有力な材料になりそうな雑誌、ファッションアイコンを探す。長期的なスパンで雑誌あるいはアイコンの調査を行う。

